



西部電気工業株式会社

## ●わが社のCSR活動

# CSR

# 西部電気工業グループのCSR活動

## 西部電気工業株式会社



### 1. はじめに

当社は昭和22年の設立以来半世紀を超えて、安全・高品質を第一義とし、日進月歩で技術革新が進む情報通信分野において、世界の中でももっとも信用・信頼性の高い日本の情報通信基盤設備の構築に携わってまいりました。

私たちはこれまでに培ってきた技術力をベースに多岐にわたる事業展開を行っています。

今後とも各事業分野で技術力・競争力を磨き、お客さまのニーズに的確に応えられるよう西部電気工業グループ一丸となって取り組んで行くとともに、企業の社会的責任(CSR)を強く意識し1人ひとりが責任ある行動に努めていきます。

### 2. 経営理念とCSRの考え方

私たちグループは、企業活動(本業)を通じて社会的責任(CSR)を果たして行くことと考えており、その企業活動は、経営理念のもと、経営方針、行動指針(図1)に従って遂行しています。

経営理念では「西部電気工業グループは、常に未来を先見し、卓越する技術力と不断の挑戦により、豊かな社会づくりに貢献します」と定めており、具体的には、経営方針の1つに「企業力(安全・品質、法令順守、社会貢献)の強化」を、また、行動指針の1つに「コンプライア

ス憲章に基づき誠実に行動しよう」と定めております。

これらの経営理念、経営方針、行動指針に従いグループ全体が統一した意識で行動することにより、企業をとりまくステークホルダーの要望と期待に応え、企業の社会的責任を果たし持続可能な社会の実現に貢献するため、CSR推進部を設置し、CSRの推進に向けた施策に積極的に取り組んでおります。以下では、「①安全・品質、②法令順守、③社会貢献」の観点でCSR活動の主な内容を紹介します。

**西部電気工業グループ経営理念**

**経営理念**

西部電気工業グループは、常に**未来を先見し**、卓越する**技術力**と不断の**挑戦**により、豊かな社会づくりに貢献します。

**経営方針**

- 現場直視による現場力強化
- 果敢な挑戦による新たな価値の創造
- 一体一心によるグループ総合力発揮
- グループで働く喜びと誇りの実現
- 企業力(安全・品質、法令順守、社会貢献)の強化

**行動指針**

- お客様からの“ありがとう”が行動の原動力!
- 生命線は現場にあり、現場最優先で取り組もう!
- 挑戦なくして成長なし、  
明るく、元気に、まず「やってみよう!」
- 「個人」「組織」「グループ」の力を結集し、  
一人ひとりが責任を持って取り組もう!
- コンプライアンス憲章に基づき誠実に行動しよう!

図1「経営理念」携帯カード

### 3. 安全・品質向上に向けた取り組み

当社は「安全なくして、事業の発展はない。事故が発生しない職場環境を作ること。」そして、その永続

の実現に向けて、安全衛生方針(図2)を定めて実行しています。

また、お客様の要求する品質規格とサービス水準を常に満たすこと。そして、その永続的実現にむけて、品質方針(図2)を定めて実行しています。

**安全衛生方針**

安全なくして、事業の発展はない。事故が発生しない職場環境を作ること。  
そして、その永続的実現に向け、当社の工事に従事する全従業員は、

- 決められたルール・手順を順守し、基本を忠実に実践する。
- 作業にひそむ危険を事前に把握し、危険要因を排除して作業する。
- 今のやり方、仕組みに改良点はないか常に考え、改善提案を行う。

**品質方針**

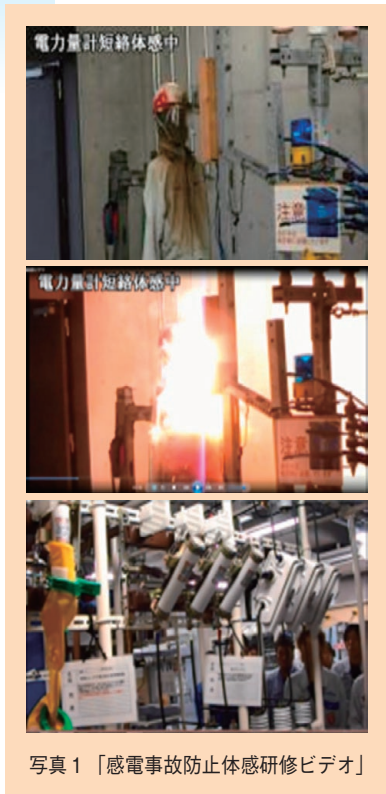
お客様の要求する品質規格とサービス水準を常に満たすこと。  
そして、その永続的実現に向け各組織は

**安全を第一に**  
効率的な品質保証体制を確立し  
お客様の高い信頼を得られる品質を提供する。

図2「安全衛生方針、品質方針」携帯カード

その中で、安全の取組みとして当社で発生した人身事故(感電事故)の恐ろしさを体感できる研修を実施するとともに、1人でも多くの方に事故の恐ろしさを知ってもらうためにその内容をビデオ化し、全協会の全従業員に見てもらおうようにしました(写真1)。

また、ITEA主催の危険体感研修についても協会会社の全従業員に見てもらえるようにビデオ化し、安全確認日等を活用して視聴できるようにしました。



交通事故の撲滅に向けて、当社の全車両（約500台）にドライブレコーダを設置するとともに事故映像、ヒヤリハット映像を視える化し、交通事故に対する意識改革に活用しています。また、当社の運転者全員（約800名）に安全運転適性テストを実施し、その結果を基に、事故を起こす恐れがある方を対象に自動車学校を活用した「企業用安全運転研修」を受講させ、受講者には自ら「安全運転取り組み宣言」を作成し、運転する際は肌身離さず携行してもらうことで、安全運転に対する意識と質の向上に取り組んでいます。

また、品質向上の取組みとしては、設計の安全と質の向上に向けた設計検討会（協力会社の設計者を含む）を年間2回実施し、設計者のスキル向上を図っています。

SO工事においては、ペーパーレス化を推進するためにオーダ閲覧機能、完了報告機能等を有し、NTTのHHCと端末一体化したSOプロセ

ス管理システムを構築しました。SOオーダを持ち出さない運用ルールを徹底させるとともに、ビル調査についても持出書類を極力なくす取組みを実施しています。

#### 4. コンプライアンス推進に向けた取組み

西部電気工業グループが社会の一員として信頼され、発展していくには、組織と個人が倫理観とコンプライアンスを持って行動する仕組みが必要です。仕組みとして重要な、企業倫理に関する行動指針と推進体制について紹介します。

##### (1) コンプライアンス憲章

「企業倫理観」の指針を明確にし、従業員1人ひとりの「行動のより所」となる規準として「西部電気工業グループコンプライアンス憲章」（H19.9制定）を定めました（図3）。

##### (2) コンプライアンス推進体制

CSRを継続的に推進するために、コンプライアンス委員会を設置するとともに、CSR推進部（コンプライアンス推進室）を設置（H20.5）

し、CSRの推進に向けた施策に取り組んでいます（図4）。

また、グループの社員等から直接、通報・相談ができる通報窓口「SD(Seibu・Denki)ライン」を平成16年10月に設置。平成27年3月には、これまでの社内通報窓口に加えて社外通報窓口を設置し、より通報のしやすい環境を整備しました。なお、通報者に不利益が生じないよう、「内部通報規程」の中で通報者の保護に関する条項を定めています。

その条項に留意しながら、問題の早期発見・解決に努める他、風通しの良い企業風土づくりにつなげています。

##### (3) コンプライアンス意識向上の取組み

###### ●CSR・コンプライアンス研修

西部電気工業グループでは、全組織のコンプライアンス推進員や中堅社員等を対象にした、「CSR全社研修」を毎年実施し、その後コンプライアンス推進員は、当該組織の従業員に対する研修会を実施することで

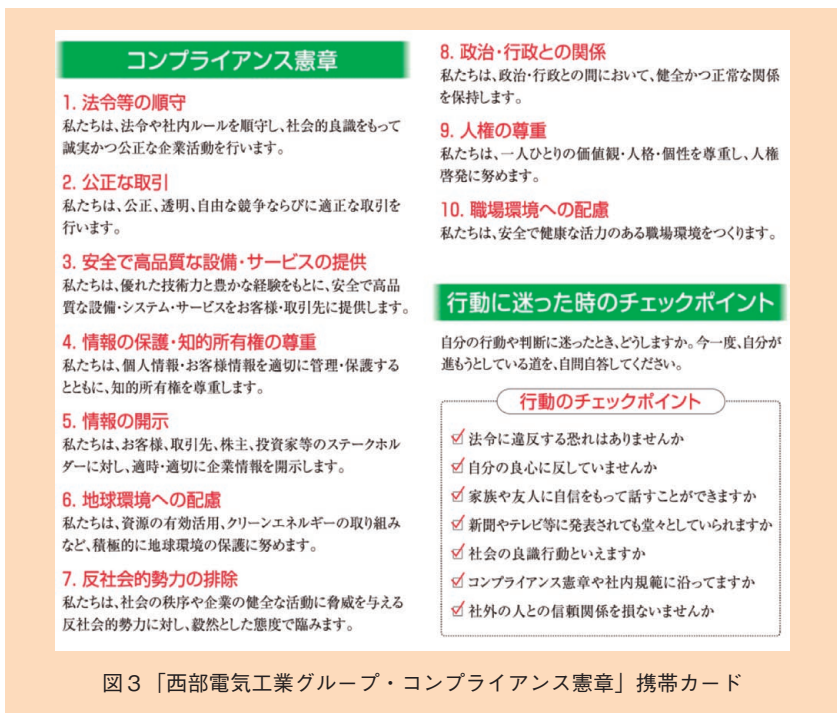
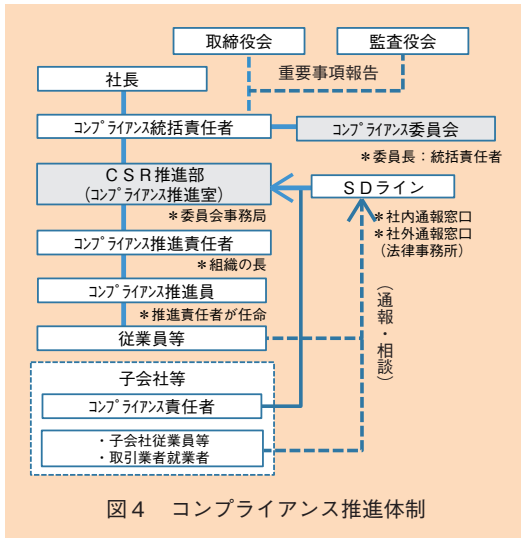


図3 「西部電気工業グループ・コンプライアンス憲章」携帯カード



地域が抱える課題解決の取組みに参画し、地域密着の活動を実施しています。

### ●熊本エリアにおける「企業の森づくり活動」

平成22年より熊本県菊池市と『企業・法人等との協働の森づくり「西部の森きくち」協定』に基づく、植樹、下草刈り等育林活動を毎年、春と秋に実施しています。本年3月には、協定を延伸し新たな協定の締結を行いました。本年4月

などを行いました。また、地元有識者による、松枯れのメカニズムと対策の講義をいただくなど、有意義な活動を行うことができました（写真3）。

今後とも本活動を継続していくための施策に取り組むとともに、これらの活動を通じた地域社会とのコミュニケーションを推進することにより、地域社会の一員として認知されることを目指していきます。



写真3 松林再生・保全活動

### ②企業活動を通じた環境保護活動

当社は、人と自然が共生できる経営を目指し、「環境方針（H15.2制定）」および「コンプライアンス憲章」第6項（図3）のもとに、全社をあげて地球環境保護活動に取り組んでいます。

### ●資源の有効利用

企業活動を行う事業所においては、ISO14001環境マネジメントシステム運用に基づき、電力使用量、コピー用紙およびゴミ排出の削減に全社で取り組んでいます。

本社ビルにおいてはBEMS（エネルギー監視システム）を導入し、電力使用量の可視化、制御により効率的な省電力の運用を行っています。

また、平成25年度の取組みに対し、福岡県知事よりエコ事業所・優秀賞の表彰を受けました（写真4）。

18日の「第6回植樹祭」では、菊池市長、社長による新協定の記念植樹を実施。約300名が参加しサクラ、モミジ1,400本の植樹を行いました（写真2）。通算で、約2,300名参加、約5ha、約一万本の植樹の活動実績となります。



写真2 第6回植樹祭

### ●福岡エリアにおける「松林再生・保全活動」

福岡県糸島市が運営する「松林保全アダプト事業」に参画し、松林の清掃・美化活動を行うことにより、“白砂青松の松原”を再生する活動を、本年度より開始することとしました。本年5月23日の第一回目の活動では、約300名の社員、家族、OB等が参加し、松葉掻き、枝拾い

水平展開を図っています。

なお、年度別施策として、これまで、役員、グループ会社社長をはじめ幹部を対象とした「CSR幹部研修」を実施しており、平成27年4月には、事業計画キャラバン時に全社員を対象とした「コンプライアンス研修」を実施しました。

### ●コンプライアンス強化月間

毎年9月を「コンプライアンス強化月間」と位置づけ、各部門（共通、NTT事業、開発営業部門）ごとに、毎年テーマを設定し、グループ会社、協力会社を含めた、施策を展開し、コンプライアンスおよびリスク管理に対する意識向上を図っています。

## 5. 社会貢献の取組み

私たちグループは、さまざまな社会貢献分野において、継続することを大切に、個人、組織ができる活動から1つひとつの取組みを行っています。

### (1) 環境分野

#### ①地域協働による環境保全活動

本社所在の福岡エリアおよび旧本社所在の熊本エリアを、全社的に取り組む社会貢献の拠点と位置付けて、グループ・OBが一体となり、

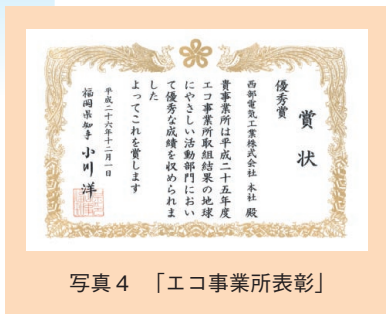


写真4 「エコ事業所表彰」

●クリーンエネルギー事業

当社は、太陽光発電システムに平成9年よりいち早く取り組み、コンセプトづくりから設計、施工、運用まで総合的に事業を展開してきました。

このノウハウを生かし、平成25年から太陽光発電・売電事業を開始し、5ヵ所の発電所が完成していません(表1・写真5)。本事業を通じて、クリーンな再生エネルギーを推進することで、地球環境保全に貢献していきます。

表1 西部電気工業 太陽光発電所

発電所名称	設置容量	運用開始
合志発電所	約430kw	H25.9
津屋崎発電所	約1,570kw	H25.10
手光発電所	約990kw	H26.8
若宮発電所	約900kw	H26.10
島原発電所	約1,290kw	H27.3



写真5 津屋崎発電所

(2) スポーツ分野

当社は、平成25年度から、なでしこリーグに参戦している地元女子サッカーチームである「福岡J・アンクラス」のホームタウンスポンサーとなり、当チームが開催する子

供サッカースクールや地域イベントへの参加などのホームタウン活動を通じて、地域のスポーツ振興活動を支援しています。

(3) その他の分野

●教育分野

- ・熊本県立大学奨学金 (H22~31年度)

●社会福祉分野

- ・障害者福祉施設で製造された商品への販売協力

●健康・医学分野

- ・献血の協力(日本赤十字社)等

以上、社会貢献活動の一部を紹介しましたが、その他、各支社、支店においても、地域社会との関わりを大切に、地域イベントへの参加、清掃活動をはじめ地域に密着した独自の地域貢献活動を展開しています。

6. マネジメント

(1) コーポレート・ガバナンス体制について

企業は、事業活動を行う中で、全てのステークホルダーに対し、公正かつ責任ある行動を継続的に取る必要があります。当社は、企業統治が有効に機能するよう体制の強化に取り組んでいます(図5)。

また、当社グループの業務の適正を確保するため、内部統制システムを整備しており、会社法改正に伴い「内部統制システム構築の基本方針」を見直すなど、適時に対応しています。

(2) マネジメントシステムの取組みについて

業務の標準化による手順の確立と継続的な改善により、安全で高品質なサービスを提供し、お客様の安心・

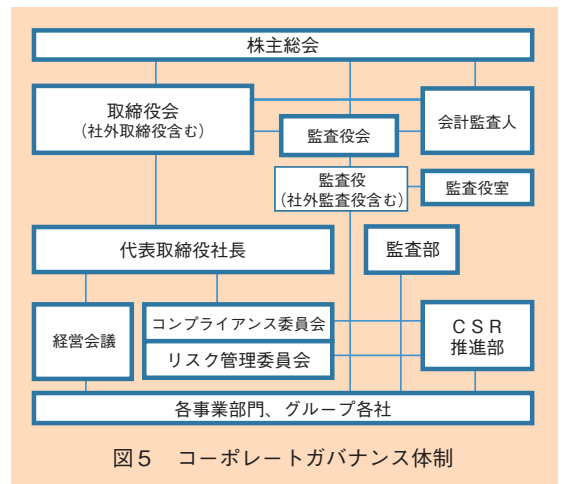


図5 コーポレートガバナンス体制

信頼を確保するために、品質・環境・情報セキュリティのマネジメントシステムの認証を取得しています。

【認証登録マネジメントシステム一覧】

- ・ISO9001 (品質) 1999.2 (初回登録)
- ・ISO14001 (環境) 2003.2 (初回登録)
- ・ISO27001 (情報) 2004.11 (初回登録)

7. 最後に

当社は、法令、社会規範を遵守し、全従業員が倫理観を持ちコンプライアンスを推進させて行くことおよび、通信インフラ構築を中心としたベースロード事業の安全・安心な運営はもとより、あらたな業容拡大分野へのチャレンジにより、会社を公正かつ、安定・継続的に成長させていくことで、従業員、家族に対する責任並びに、社会への責任を果たして行きます。

また、企業は社会の一員との考えに立ち、社会に信頼される良きパートナーとして受け入れられるよう、「当社でもできる」、から「当社ならできる」活動を継続的に実施し、社会が抱える課題解決に協働で取り組むことで社会貢献、社会的責任を果たしていきたいと考えています。